

IOS-XEでの同等のCLIの登録の設定

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco® IOS-XEが稼働するCatalyst 9000スイッチでCLIコマンドを使用して特定のシステムパラメータを変更する方法について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに特有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- Catalyst 9000スイッチシリーズ
- Cisco IOS-XE

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

背景説明

Command Line Interface (CLI ; コマンドラインインターフェイス) コマンドは代替手段であるため、Cisco® IOSでコンフィギュレーションレジスタの値を変更する必要はありません。

問題

Config-registerは16ビットのソフトウェアレジスタ値で、NVRAMに事前に設定されており、スイッチの動作を次のように変更するために使用できます。

- ・スイッチのブート方法を変更します (ROMmon、NetBootに切り替えます)。
- ・スイッチのブート中にオプションを変更する (設定を無視し、ブートメッセージを無効にする)。
- ・コンソール速度 (ターミナルエミュレーションセッションのボーレート) を変更します。

Cisco IOSソフトウェアが稼働するClassicプラットフォームでは、コンフィギュレーションレジスタはコンフィギュレーションモードから `config-register` またはROMmonからコマンドを発行し、`confreg` コマンドが表示されない場合もあります。「`show version`」コマンドを使用すると、コンフィギュレーションレジスタの現在の設定を表示できます。

Cisco IOS-XEが稼働するCatalyst 9000スイッチでは、`confreg` コマンドは引き続き設定に使用でき、現在の設定は `show version` 実際のIPアドレスは `config-register` コマンドが無効で誤動作したため、混乱が発生しました。

これは、Cisco IOS-XEがこの機能を使用しないためです `config-register` コマンドを発行し、同じ処理を行うための代替CLIコマンドを提供します。

注：コンフィギュレーションレジスタ値の表示が誤っている。 `show version` 16.12.4および17.3.1リリース以降では、出力が削除されています。

解決方法

Cisco IOS-XEで同等のCLIコマンドを使用すると、Cisco IOSで`config-register`値を設定することで実行されるタスクと同じタスクを実行できます。

稼働	Cisco IOS Config-register値	同等のCisco IOS-XE CLI
正常にブートする	0x2102	Switch(config)#no boot manual
rommonへのブート	0x0,0x2120	Switch(config)#boot manual
ブレークの有効化/無効化	0x2120/残りのレジスタ値 0x102, 0x2101, 0x2102, 0x2142 : 9600ボーレート 0x1202:1200ボーレート 0x2120、0x2122、 0x2124:19200ボーレート	Switch(config)#[no]boot enable-break
ボー/コンソール回線速度の設定	0x2902:4800ボーレート 0x2922:38400ボーレート 0x3122:57600ボーレート 0x3922:115200ボーレート 0x3902:2400ボーレート	Switch(config)#line console 0 Switch(config-line)#speed ? <0 ~ 4294967295>送受信速度
スタートアップを無視	0x2142 0x102, 0x2101, 0x2102, 0x2122, 0x2124, 0x2142,	Switch(config)#system ignore startupconfig
ブレークの無視	0x2902, 0x2922, 0x3122, 0x3902, 0x3922	Switch(config)#[no]boot manual Switch(config)#[no]boot enable-break
パスワード回復を無効にする	0x102	Switch(config)#system disable password recovery

注：システムがCisco IOS XEで稼働していて、リロードのたびに25分以内の稼働時間で5回連続してブートに失敗する場合、ソフトウェアはROMmon変数MANUAL_BOOT="yes"を自動設定します。つまり、システムが何らかの理由でブートに失敗した場合、5回連続して試

行した後にROMmonに自動ブートします。

両方とも無視する場合 config パスワード回復の無効化を有効にすると、それぞれのROMmon変数が設定されます。

```
SWITCH_DISABLE_PASSWORD_RECOVERY=1  
SWITCH_IGNORE_STARTUP_CFG=1
```

これらの変数の両方が設定されている場合、スイッチは起動時にプロンプトを表示し、 startup-config.

```
Booting...  
<snip>
```

```
Both ignore startup configuration and disable password are set  
This will result in erasing the startup config  
Do you want to Erase the config? Default: n, Answer y/n:  
User response is YES, erasing the startup config  
Removing FIPS Key. Disabling FIPS MODE  
All TCP AO KDF Tests Pass
```

```
service password-encryption
```

```
service password-recovery noconfirm
```

関連情報

- [シスコテクニカルサポートおよびダウンロード](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。